

## 学術研究 | 「プレ課題研究ポスター発表会(クラス毎)」

### 【概要】

8 月 26 日(木)6・7 時間目に、76 回生が 16 の講座に分かれ、実施してきた実験・調査をまとめた成果を発表する「プレ課題研究ポスター発表会」がクラスごとに行われました。

発表は、クラスの生徒が発表者と聴衆者に分かれ、前半と後半で役割を交代して行いました。聴衆者側は、班の 3 人が辛口・甘口のカードを引き、発表者に対して、引いたカードに応じた感想を述べたり質問をしたりしました。

### 【発表の様子】

制限時間の 5 分以内に発表が終わる班が多く、進行は押すことなく余裕を持って進めることができました。発表者側は、内容が伝わりやすいように図を手で指し示したり、原稿を暗記して前を向いて話したりすることができている人が多く、どの班も聞き手に、より伝わるよう工夫して発表できていました。また、聴衆側からは感想や質問が積極的に出されていて、ポスター内の文章を指摘したり、原稿の内容に助言をしたりするなどより細かい部分まで見て聞いて、コメントができていました。発表者側も聴衆側も発表がより良いものになるよう積極的に話し合っている様子が見られました。

### 【講評】(各クラス担任・副担の先生方のコメントより)

#### 良い点

- ・準備から片付けまで協力的な生徒が多く、会をスムーズに進めることができていた。
- ・聴衆側から質問やアドバイスが多く出たことで、発表者側の課題が多く見つかった。
- ・これからの生活に役立つような結果や展望を述べられていた。

#### 改善点

- ・グラフのタイトルがない班があり理解しにくかった。
- ・仮説に基づいた結論づけが出来ていない。
- ・グラフの選び方や、実験方法でなぜその過程が必要なのかについての説明をするとよい。



# 学術研究 I 「プレ課題研究ポスター発表会（全体）」

9月11日にポスター発表会実施され、1年生が体育館でこれまでの研究の成果を発表しました。クラス内発表会の反省点を生かし、どの班も一生懸命取り組んでいました。また、2年生の先輩方から、発表についての質問やアドバイ스가積極的に挙がり、充実した時間となりました。以下に、一高のOBOGで大学院生の方からのアドバイスと、校長先生・教頭先生からいただいたコメントを掲載します。

## 大学院生の方から

76回生の皆さん、ポスター発表お疲れさまでした。私からは発表内容ではなく発表する上での意識について、皆さんの様子を見ていて少し気になったことを書きます。

今回の発表では多くの方が原稿を見ずにお話をされており、事前に練習してきたことが窺えて感心しました。それと同時に、原稿を正確に暗唱することに意識が向きすぎてしまっているのかな、という印象も受けました。

もちろん何も見ないで話せるくらい、発表の内容についてしっかりと頭に入れておくことは大切かと思えます。しかし、事前に作った原稿をなぞることを重視しすぎると話し方が一本調子になり、聞いている側には皆さんが一番主張したいところや注目してほしい箇所がいまひとつ分からない、という事態に陥る可能性もあります。

声に抑揚をつける、目の前にいる人たちの反応を見ながら話す、時にポスターを指し示してみるなど、些細な働きかけがあるだけでも聞いている側の理解のしやすさは大きく変わりますので、次の機会には「聴衆に向けて話す」という点にさらに重きを置いてみてください。その意識ができるようになると、今後の皆さんの発表が相手により伝わると思えます。

東北大学大学院文学研究科博士課程前期1年 菊田 真依子 先輩

## 校長先生・教頭先生から

（質問内容＝ ①今回の発表を見て感じたこと、②これからの学術研究に活かせること）

### 校長先生

- ① 2年生に対して自分たちの発表を伝えようと事前準備をして臨んだ様子が感じられた。
- ② 研究に目を止めてもらうために、自分の興味関心に応じて取り組んだ研究に、社会のニーズや周りの人のニーズなども加えて考え、進めていくことが大切。他にも、上手なタイトルや人を引き付けるようなキャッチを、相手がどのようなものに興味を示すのかを考えながら作成することも重要。

### 教頭先生

- ① クラスごとの発表に比べて格段に精度が上がっていた。  
このコロナ禍を視点にした身近な話題の研究は大事だと思った。
- ② 本格的な学術研究では、研究の精度を高めるために、どうやってデータを活用するのか、発表などでいかにみせるかを考えることが大切。  
研究に特化するのではなく、誰かに見せることや伝えることを想定して研究を行うことも重要。

## 編集後記

質問や助言を受けて、先輩方の学術研究に対する熱意を感じ、とても刺激を受け、たくさんのことを学ぶことができました。課題研究でよいスタートをきれるよう頑張りましょう！

大学院生の先輩方からは、他にもコメントをいただいています。続きは、「学年のてびき」次号に掲載されるので、76回生はそちらもあわせて読んでください。

